

南ア月報
(2021年2月)

【内政】

- ロックダウン「調整された」レベル3の一部緩和
- ラマポーザ大統領による施政方針演説
- 国家的災害事態の延長
- ANC全国執行委員会（NEC）会合の開催
- 陸路国境の一部再開
- ズマ前大統領による声明
- ロックダウン警戒レベル1への移行（規制緩和）

【外政】

- 第38回AU閣僚執行理事会におけるパンドール国際関係協力大臣開会の辞
- ラマポーザ大統領とモディ・インド首相の電話会談
- ラマポーザ大統領のAU首脳会合出席
- 大統領施政方針演説に関するパンドール国際関係協力大臣答弁

【経済】

<経済指標>

- 消費者物価指数
- 為替レート
- 製造業生産高
- 鉱業生産高
- 失業率

<出来事>

- 2020年度財政演説
- 南アワクチン展開計画の開始

【警備】

- 南ア治安情勢（2020年度第3四半期犯罪統計）

1 内政

●ロックダウン「調整された」レベル3の一部緩和

1日、ラマポーザ大統領は演説を行い、南アの新規感染者数、入院患者数、死亡者数の減少を受け、調整されたレベル3 (the adjusted Level 3) における規制緩和について発表した。夜間外出禁止令の緩和 (午後11時～午前4時) 及びそれに伴うレストランを含む店舗 (施設) の閉店時間の緩和 (午後10時まで) 等が発表された。

●ラマポーザ大統領による施政方針演説

11日、ラマポーザ大統領はケープタウンで開会された国会において施政方針演説を行った。今回は、コロナ対策のため、現場入りは国会議員を中心とする約50名のみで限定され (外交団からは外交団長のみ)、他の聴衆はオンライン参加、という初のハイブリッド方式での開催となった。ほとんどの主要政党代表は議場に物理的に出席したが、混乱はなく、演説は約1時間半にわたり円滑に行われた。また、例年行われていた儀仗礼、レッドカーペット等は行われなかった。

演説においてラマポーザ大統領は、2021年の優先事項は、①新型コロナウイルス克服、②経済回復加速、③持続的かつ包摂的な成長のための経済改革及び④汚職対策である旨述べた。また、特に自動車産業に関し、フォードがツワネにおいて160億ランドの設備拡張を発表したほか、トヨタがクワズールー・ナタール州の工場で南アの組立ラインのためのハイブリッド電気自動車第一世代生産開始に投資し、これに日産、メルセデスベンツ及びいすゞの生産設備拡張が続き、これら全てが自動車生産におけるグローバルなプレイヤーとしての南アの地位を確固たるものにしていく旨述べた。

●国家的災害事態の延長

11日、南ア政府は国家的災害事態 (the national state of disaster) の1ヵ月延長 (2021年3月15日まで) を発表した。

●ANC全国執行委員会 (NEC) 会合の開催

13日～14日、与党ANC全国執行委員会 (NEC) の会合が行われ、汚職問題、次回地方自治体選挙 (注: 本年8月から11月の間に開催予定) 及びANC青年同盟などについて議論された。

特に、汚職問題に関しては、ゾンド調査委員会に対するANCによる説明を主導し、この機会を利用して、汚職と汚職による国家掌握、そしてその国民と国への影響に反対するANCの立場を明確に再確認するとともに、ANCによるゾンド調査委員会での説明、「退任」ガイドライン (“step aside” guideline) の策定がなされた。このガイドラインは、州やNWC (全国作業部会) との協議を行い、3月中に完成予定とされている。

●陸路国境の一部再開

15日、年末年始の新型コロナウイルス感染者急増を受け閉鎖されていた陸路国境のうち、20の陸路国境が運用再開となった (残りの33の陸路国境は、引き続き閉鎖)。

●ズマ前大統領による声明

15日、ズマ前大統領が、汚職問題によりゾンド調査委員会 (the Zondo Commission) の提起に基づき憲法裁判所から同委員会に同日出頭するよう命じられていたことに対し、召喚状や憲法裁判所の命令に従うことを拒否し、自らの対応を正当化する趣旨の「憲法裁判所の決定に関する最終的な声明」と題する声明を発表した。

同委員会のゾンド副主席判事は、「ゾンド調査委員会は、憲法裁判所に、ズマ前大統領は法廷侮辱罪 (guilty of contempt of court) で有罪である旨の命令を求める。その後の判断は裁判所に委ねられる。同裁判所は、(同罪に関しては) 懲役または罰金を科すことができる。委員会は憲法裁判所に対し、懲役刑を科すこと求める。何が適切かは裁判所の判断に委ねられる」旨述べた。

●ロックダウン警戒レベル1への移行(規制緩和)

28日、ラマポーザ大統領は演説を行い、新規感染者数、入院患者数、死亡者数の減少を受け、南アは新型コロナウイルスの感染第二波から抜け出したとして、3月1日より、国内全ての地域における調整されたレベル3 (the adjusted Level 3) から警戒レベル1への移行(規制緩和)を発表した。一方で、感染第三波の脅威は常に存在しているとして、国民に対し警戒を緩めないよう呼びかけた。警戒レベル1では、夜間外出禁止令の緩和(午前0時～午前4時)及びそれに伴うレストランを含む店舗(施設)の閉店時間の緩和(午後11まで)の他、経済活動に対する規制の多くが取り除かれた。

また、昨年10月1日に国境が再開されて以来、国際線の離発着がORタンボ空港、ケープタウン空港、キングシャカ空港の3空港に限定されていたが、クルーガー・ムプマランガ空港、ランセリア空港においても国際線の離発着が再開されることとなった。

2 外政

●第38回AU閣僚執行理事会におけるパンドール国際関係協力大臣開会の辞

3日、パンドール国際関係協力大臣は、第38回AU閣僚執行理事会で開会の辞として演説を行った。同大臣は、COVID-19がアフリカに深刻な損害を与えており、OAU(アフリカ統一機構、AUの前身)が南アのアパルトヘイトに対して取ったような連帯が必要であり、低迷から回復を図るための解決策を団結して考え出していく必要があると述べた。同大臣は、グローバル・サウス、特にアフリカがワクチンを入手するために困難に直面していることに懸念を示した。同大臣は、豊かな「北」が大量のストックを抱え込み、アフリカが正当な取り分を確保できておらず、または、アフリカにワクチンが到着しているにもかかわらず、人々が接種できないような状況もあると述べた。また、同大臣は、南アとインドは、WTOに対し、限定された期間、定められた枠組みの中で、COVID-19の予防と治療に関連するTRIPS(知的所有権の貿易関連の側面に関する協定)を免除するよう訴えていることを明らかにした。

●ラマポーザ大統領とモディ・インド首相の電話会談

4日、ラマポーザ大統領は、モディ・インド首相と電話会談を行った。電話会談は、インド血清研究所 (Serum Institute of India) の最初のCOVID-19ワクチンが南アに到着した後に行われた。電話会談において、ラマポーザ大統領は、インド政府及び人民に対し、ワクチンと科学的技術の形で世界にもたらされた贈り物に感謝の念を表明した。ラマポーザ大統領は、南アのパンデミックにおいて、インドが示した連帯に対する南ア国民の深い感謝を伝えた。モディ首相は、インドがさらに1~2種類のワクチンを開発する予定であり、アフリカの国々に対し、特別に形の支援を行うと述べた。両首脳は、両国がWTOに向けて行ったTRIPSの一時的な免除を求める提案に対し、国際的な支持が広がっていることに留意した。

●ラマポーザ大統領のAU首脳会合出席

5日、ラマポーザ大統領は、テレビ会議形式で行われたAU首脳会談に出席した。ラ

マポーザ大統領は、AU 議長の座を正式にチセケディ・コンゴ（民）大統領に譲渡した。南アが議長国の期間、2021 年 1 月 1 日にアフリカ大陸自由貿易圏（AfCFTA）協定の運用が開始されるなどの成果が達成された。第 14 回 AU 特別会合が開催され、紛争のないアフリカ（Silencing the Guns）というアジェンダ 2063 の主要なプログラムの進捗状況が確認されたことも同様である。その他にも、パンデミック対策のための AU・Covid19 対応基金が設立され、AU 議長のイニシアティブによって、EU や G20 等の国際的なパートナーや世銀、IMF といった国際金融機関に対し、パンデミックに苦しむアフリカ諸国の債務免除についての対応が呼びかけられる等の成果があった。

●大統領施政方針演説に関するパンドール国際関係協力大臣答弁

17 日、パンドール国際関係協力大臣は、大統領施政方針演説に関する答弁を行った。同大臣は、投資の呼び込みを重視するラマポーザ大統領の方針に従い、国際関係協力省がアジアとの関係を強化し、昨年、南アは東南アジア友好協力条約に加入し、RCEP（地域的な包括的経済連携）からも利益を得ることになると述べた。さらに、同大臣は、「2020 年 10 月時点で、南アはマレーシア市場に相当な量の牛肉を輸出する機会を確保した。フルーツにおいては、タイ市場へのアクセスも獲得した。アジア地域において、製品規格が交渉され、交渉は進んでいる。これは、ベトナム及び韓国への食用ブドウ、インドと日本へのアボカド、中国とインドへの洋梨を含む。アジア及び中東（オセアニアを含む）との輸出入は、2019 年に初めて 1 兆ランド（1,009,726,847,172 ランド、南ア歳入庁）という節目を越え、さらに増加する見込みである。多くのアジア諸国は、ラマポーザ大統領による投資サミットや国賓訪問の機会に多大な投資の約束をした。トヨタ、いすゞ、タタ自動車、マヒンドラ、マザーサン・スミ等の企業は南アへの投資を増加させた。中国は、140 憶ドル、サウジラビア及び UAE はそれぞれ 100 憶ドルの投資を約束した。」と述べた。

3 経済

<経済指標>

●消費者物価指数

2021 年 1 月の消費者物価指数（CPI）は前月から 0.1%上昇、年間消費者物価インフレーション率は前月に比べ 0.3%上昇した。（南ア統計局、2 月 17 日）

●為替レート

2021 年 2 月 28 日付（南ア準備銀行）

7.1461 ランド/円

14.8367 ランド/米ドル

18.0333 ランド/ユーロ

●製造業生産高

2020 年 12 月の製造業は、前年同月比 1.8%増。主なプラス要因は、食料品及び飲料で 6.4%増、自動車及び輸送機器関連製品で 18.1%増、鉄鋼、非金属製品、金属製品及び機械で 3.6%増、木材及び木材製品、紙、出版及び印刷で 3.7%増。また過去 3 ヶ月（10 月～12 月）の季節調節後生産高は 2020 年 7 月～9 月の 3 ヶ月から 5.2%増。製造業 10 部門中の 9 つの部門で生産高増となった。（南ア統計局、2 月 11 日）

●鉱業生産高

2020年12月の鉱業生産高は、前年同月比0.1%増。主なプラス要因は、マンガン鉱石で32.5%増、ダイヤモンドで51.4%増、石炭で5.7%増。また過去3ヶ月（10月～12月）の季節調節後生産高は2020年7月～9月の3ヵ月から6.5%減。（南ア統計局、2月11日）

●失業率

南ア統計局は2020年第4四半期の失業率を32.5%と発表。2008年の調査以来、最も高い数字であった。2020年第3四半期よりも就業者数は33万人増加、失業者数は70万人増加、求職活動を含む経済的活動を行っていない「経済的非活動者（not economically active）」の数は89万人減少。2020年第3四半期途中まで、厳格なロックダウン措置のため、求職活動自体が不可能な状況に置かれたために、失職中にもかかわらず「失業者」ではなく「経済的非活動者」としてカウントされていた者が増えていたところ、今期においては、経済的非活動者がロックダウンの緩和を受けて求職活動を再開し、失業者としてカウントされるケースが増加した。

<出来事>

●2020年度財政演説

24日、ムボウエニ財務大臣は2021年度財政演説を行い、2021年度の財政収入を1.35兆ランド、財政支出を1.56兆ランドになる見込みであると発表。2020年度の累積公的債務は3.95兆ランドであり、2023年度には5.2兆ランドまで膨らむ見通し。南アGDP成長率を2020年はマイナス7.2%、2021年はプラス3.3%と予想。また、ワクチン展開計画に対し、今後2年間で100億ランドが充てられる。

●南アワクチン展開計画の開始

ジョンソン・エンド・ジョンソン社のワクチンの第1バッチ（80,000回分）が2月16日に南アに到着した。翌日、17日からは、国内17か所においてワクチン接種が開始された。今展開計画では、2021年末までに、人口の67%（約4,035万人）のワクチン接種を目標に3つのフェーズを設定。現在の第1フェーズにおいては、国内約125万人の医療従事者が接種対象となる。また、初日の17日には、ラマポーザ大統領及びムキゼ保健大臣も、安全性を確かめるという理由からワクチンを接種。模範を示したとして多くの国民から賞賛された。

4 警備

●南ア治安情勢（2020年度第3四半期犯罪統計）

19日、南ア国家警察から2020年度第3四半期の犯罪統計が発表された。全体の発生件数は399,718件で前年同期比-7.1%と減少したが、殺人、殺人未遂、性犯罪など凶悪重大な犯罪においては増加が見られた。

今期で特筆すべきは、現金輸送強盗が65件発生（前年同期比+66.7%）し前期に引き続き高い水準で発生していることと、スマートフォンなどの高額な積み荷を配送中のトラックなどを狙ったトラックジャックが436件（前年同期比+34.2%）と急増したことである。

一方、警察活動により認知した犯罪件数は 59,800 件（前年同期比-20.4%）と、捜査活動による認知件数（検挙件数委）が未だ低調であることが窺えた。